

2010年10月14日

アメリカ合衆国大統領  
バラク・フセイン・オバマ 殿

原水爆禁止千葉県協議会

## 臨界前核実験の強行に満身の怒りをこめて抗議する

貴国エネルギー省国家核安全保障局（NNSA）は12日、ネバダ州の核実験場で9月15日に臨界前核実験を実施したことを明らかにした。通算24回目となる今回の実験強行に対し、非核平和な世界を願う被爆国日本国民として、失望と憤りをもって、満身の怒りをこめて抗議する。

報道によれば、今回の実験は、「保有する核兵器の信頼と安全性を維持するために必要な情報を得るのが目的」（NNSA）とされる。我々は、こうした核実験が、貴職がこの間、繰り返し表明してきた「核兵器の役割の低減」の言明からも逆行するものであり、今、世界が願う「核兵器のない世界へ」のアプローチを台無しにする暴挙である。最大の核保有国が、こうした核実験を実施することは、他国の核開発や核拡散を誘発する危険性を指摘せざるをえない。「核兵器の信頼性」を検証しなければならない核兵器は、速やかに解体・廃棄すべきである。

今年5月に開かれたNPT再検討会議では、10年ぶりに合意された最終文書で、貴職が、臨界前核実験を含むすべての核実験を中止することを重ねて強く求めるとともに、包括的核実験禁止条約（CTBT）の早期批准をはじめ、NPT「行動計画」の誠実な履行と、いっそうの具体化・発展のために役割を果たすよう求めるものである。

以上